

神奈川県初記録のツシマトリノフンダマシ

徳永歴亜・古南幸弘・浜口哲一

Rekia TOKUNAGA, Yukihiro KOMINAMI & Tetsuichi HAMAGUCHI: A New Record of *Paraplectana tsushimensis* (Araneae, Araneidae) from Kanagawa Prefecture

ツシマトリノフンダマシ (*Paraplectana tsushimensis* YAGINUMA) は、関東地方以南に分布する南方系の美しいクモで、採集記録の少ない種類である。神奈川県内からは未記録であったが、筆者らの一人徳永が、横浜市栄区で1個体を採集することができたので報告する。報告にあたって、同定と過去の採集記録について御指導を頂いた新海栄一氏、池田博明氏にお礼申し上げる。

ツシマトリノフンダマシが記録されたのは、横浜市栄区上郷町の横浜自然観察の森の構内で、標高約100mの丘陵地である。1988年6月25日午後5時過ぎ、徳永が水際のコガマの茎の上にとまる本種雌1個体を発見した。発見場所はミズギの疎林に囲まれた、面積約400m²の湿性の草原で、水生昆虫誘致のために造成さ

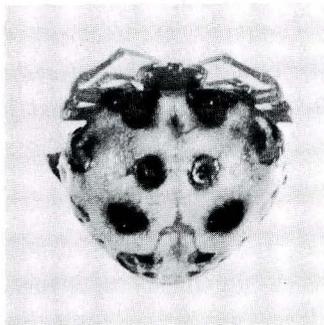


図1. ツシマトリノフンダマシ♀

れ、通称ヘイケボタルの湿地と呼ばれている。周辺は落葉広葉樹を中心とした二次林である。

当日は曇天で、最初は脚を縮めてじっとしていたため、テントウムシの仲間がうずくまっているように思われた。撮影をしようと近づいた時、脚を伸ばしたため、初めてクモの仲間であることに気づいて、採集した。

採集された個体は体長7.3mmの雌成体で(ちなみに本種の雄は未発見である)、腹部の幅は7.5mmであった。半球形に盛り上がる大形の腹部は橙赤色の地に12個の黒色の紋が配列され、頭部と歩脚も橙赤色で、本種の典型的な色彩を示していた。液浸後時間が経過するに従って、腹部の赤色は退色してきた。

この個体はアルコール液浸標本とし、平塚市博物館の資料として保存されている。標本の登録番号はHCM-53-1678である。

新海栄一氏によれば、ツシマトリノフンダマシの関東地方の採集記録としては下記の6例を数えるのみだという。神奈川県からは本報告が初めての記録になる。

- | | | |
|---------------|---------------|------|
| 1. 千葉県富津市金谷 | 1979. Apr. 67 | 稲川 良 |
| 2. 東京都八王子市高尾山 | 1980. Jul. 27 | 相良淳一 |
| 3. 栃木県足利市 | 1981. Jul. | 大川 |
| 4. 東京都五日市市広徳寺 | 1983. Jul. 24 | 松浦祐司 |
| 5. 東京都八王子市南浅川 | 1985. Jul. 10 | 新海栄一 |
| 6. 同 上 | 1988. Jul. 6 | 貞元己良 |

今回ツシマトリノフンダマシが発見された場所は、市街地に近い丘陵地であり、三浦半島、鎌倉などでも精査すれば今後さらに記録例が増える可能性が十分考えられる。諸賢の注目をお願いしたい。

(徳永歴亜:(財)日本野鳥の会, 古南幸弘:(財)日本野鳥の会・横浜自然観察の森, 浜口哲一:平塚市博物館)